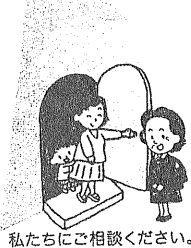


民生委員・児童委員は 皆さんの立場に立って 日ごろ活動しています

6月初旬、「民生委員・児童委員はあなたの相談相手です」の大きな見出しで当学区の民生・児童委員、主任児童委員、老人福祉員の全員の名前と電話番号を載せるチラシとともに、それぞれの地区担当者の名前と電話番号を記す、三つ折りすれば名刺ぐらいの大きさのカードをお手許にお



「紫の上月の露」公演のお礼

ほとぎす君につてなむ

ふるさとの花橘は今ぞさかりと
『源氏物語・幻』より

桜咲く卯月から風薫る草月葉祭の時期にかけて、私達は、源氏物語『紫の上月の露』の公演を行ってまいりました。

このたびは京都府庁旧本館「春の一般公開」、京都文化博物館「源氏物語千年紀展」でのイベント公演という事で、少し荷が重かったのですが、皆様の温か

いご援助と励ましに支えられ、舞台に立つことができました。ありがとうございました。

皆様への感謝を胸に、より一層練習に努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

朗読サークル
「木もれ日」一同

20080624
[08-02]
総 134号
発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

かかえておられる方のご相談に誠意をもってお応えします。また、内容によっては必要なサービスが受けられるよう関係機関や団体などとも連携・協働し、「つなぎ役」をつとめます。

今後とも「広げよう地域に根ざした思いやり」を念頭に活動してまいりますので、どうぞお気軽にご相談ください。

桂坂学区
民生・児童委員一同

「桂坂山の手倶楽部」をご存知ですか？

桂坂学区にある「桂坂山の手倶楽部」（老人倶楽部）では、会員相互の親睦を図りながら活発な活動をしています。

以下、現在の概要や活動状況をお知らせいたしますので、これに興味を持っていただき、お近くの会員を通じてご入会下さるようお待ちしております。

- I. 発 足 平成4年4月26日
- II. 構 成 桂坂学区を四地域の単位倶楽部に分け、それぞれに役員や地域委員を設けて情報の伝達などを行っています。活動は四倶楽部がまとめて全体で行っています。
- III. 会 員 桂坂在住の概ね60歳以上の方が対象で、会員数は現在約240名。
- IV. 会 費 年間 1,800円
- V. 活動状況

(1) 全体活動

親睦融和（総会親睦会、新年互礼会）、教養向上（趣味の作品展、出前トーク）、地域社会との交流（桂坂小学校支援、安全見守り活動、自治連20周年記念事業参画、野鳥遊園支援）や社会福祉事業などに取り組んでいます。

(2) 同好会活動

現在、以下の15の同好会がそれぞれ活発な活動をしています。

- ① 日帰り探訪 年1回、バス旅行で身も心もリフレッシュ
- ② 歩こう会 真夏と真冬を除く毎朝、桂坂内をウォーキング
- ③ 書 道 月2回、ふれあい会館でいろんな書体の勉強
- ④ コーラス 月2回練習し、文化芸能祭やカザラッカコンサートでも発表
- ⑤ 謡 曲 外部講師を招き、ふれあい会館で月3回練習
- ⑥ 俳 句 月2回の例会、年2、3回吟行し野鳥遊園にも出展
- ⑦ 囲碁・将棋 毎週月曜、ふれあい会館で例会
- ⑧ 写 真 月1回、屋外の撮影会やふれあい会館で講座
- ⑨ グラウンドゴルフ 健康と親睦を目的に、週2回プレー
- ⑩ ゴルフ 近郊のゴルフコースで、年4回のコンペ
- ⑪ ボウリング 月2回、エミナースボウルでゲーム
- ⑫ 社交ダンス 毎水曜レッスン、年2回のダンスパーティ。男性歓迎
- ⑬ カラオケ 月2回、シダックス京都桂クラブで練習
- ⑭ マージャン ふれあい会館で月1回ゲーム 初心者歓迎
- ⑮ 絵 画 上手な絵より楽しい絵をモットーに月2回勉強

● ハイキング 現在、発足の企画中

ご自分に合う同好会を見つけ、まずお近くの会員に声を掛けて下さい。



桂坂学区の皆様

日本赤十字奉仕団桂坂分団
分団長 松井 政枝

日赤社資募集実績のご報告

平成20年度も桂坂学区内一斉に「赤十字社員増強運動」を行いましたところ、各自治会の皆様方のご協力により、お寄せいただきました社資や寄付金が下記の通りの実績をあげることができましたことに感謝申し上げます。また、関係者の方々のお力添えに厚くお礼申し上げます。

なお、年度末には、日本赤十字社より実績額の10%の還付金がいただけますので、事務活動費を差し引きまして、桂坂学区災害基金として積立させていただきます。

つきましては、今年度の実績を下記の通りご報告申し上げます。

自治会名	員数	実 績 円	協力企業・商店	実績 円
かえで	321	125,000	桂坂郵便局(足立様)	3,000
さつき	317	144,500	朝バロコ スペース システムズ様	1,000
しらかば	195	89,600	朝西洋ハウジング様	5,000
はなみずき	275	60,600	いずみや桂坂店様	5,000
あかしあ	135	64,900	桂坂 谷口書店様	1,000
ばぶら	259	52,400	桂坂 十兵衛様	1,000
けやき	161	67,500	日文研(梶川様)	1,000
ひいらぎ	278	112,300	赤おに(北田様)	1,000
つばき	301	122,500	野鳥遊園(窪田様)	1,000
くすのき	232	107,300		
あすなろ	150	70,000		
にれのき	250	112,000		
もみのき	385	160,000		
さくら	144	30,000		
合計 (A)		1,318,600	合計 (B)	9,000
成20年度の実績額 (A+B)				1,327,600 円
平成19年度の実績額				1,391,850 円

ふれあい会館 案内

申込み・問い合わせ先
TEL 333-4651
FAX 333-4654

太極拳教室
7月4日～9月19日
第1・第3金曜日
10:00～12:00
(8月15日休講)

講師 富永洋子氏
大極拳教室
受講料 書面 六〇〇〇円
定員 一五名(先着順)
対象 六〇歳以上
申込 申込書(申込書)を
持参品 動きやすい服装・
靴底の薄い運動靴
(バレーシューズ)・筆記

用具
会場 ふれあい会館
申込み 6月2日より受付
申込み先着順

多世代間交流講座
★親子でお干菓子づくり
と一身体験茶会
8月5日(火)
10:00～15:00
講師 布施宗青先生
茶室 聖徳寺 浄土堂

受講料 一五〇〇円
2名の持参品(筆・筆洗)
対象 年長五歳以上から
小学6年生までの
親子一〇組(祖父
母でも可)

持参品 筆記用具・エプロン・替ソックス・
ふくさ・扇子・懐
紙・昼食用弁当・

ものづくり体験講座
国際子ども塾
午前の部 三〇名
10:00～12:00
午後の部 三〇名
13:30～15:30

★フィリピンの
ものづくりと文化の紹介
7月24日(木)
指導 オオサキマユミ氏ほか

★タイのものづくりと
文化の紹介
7月31日(木)
指導 マサキマユミ氏ほか
★ミャンマーの
ものづくりと文化の紹介
8月7日(木)
指導 テニマア氏
リンキートニ氏

会場 ものづくり体験館



体育ニュース

自治会対抗
ソフトボール大会
はなみずき
二連覇 成る

6月8日、第19回桂坂自治会対抗ソフトボール大会が三自治会の参加で開催されました。

前日深夜より朝方までの雨で開催が危ぶまれましたが、役員ほか参加者全員のグラウンド整備の努力により、また、天候も急激に回復し、約一時間遅れの10時に第1試合を開始することができました。

日頃の運動不足の解消、スポーツを通じての親睦、各自治会それぞれの思いで和やかに、にぎやかに、楽しく、面白く、無事終了いたしました。

大会結果

優勝 はなみずき自治会
準優勝 もみのき自治会
3位 かえで、さくら自治会
5位 つばき、あかしあ自治会
7位 ぼびら、しらかばひいらぎ自治会
10位 にれのき、くすのき、けやき、さつき自治会

選手、応援の皆さん、役員、委員の皆さん、ご苦勞でした。
はなみずき自治会の三連覇を阻止するのはどの自治会でしょうか、来年が楽しみです。

ソフトボール担当
小川 誠一

ゴルフ大会
優勝 さつき自治会

大会結果

6月14日(土)、夕方よりナイター照明に照らされた桂坂小学校グラウンドにおいて、一三自治会、七〇名の参加を得て、大会は開催されました。

当日は、初めての方から競技会にも参加されているベテランの方まで、老若男女関係なく集まっていたきました。グラウンドのあちこちから歓声が聞こえ、皆さん楽しまれたことと思います。

ホールインワンも一三名の方が達成され、その中に四名がおられるさつき自治会が、見事、優勝されました。

優勝 さつき 一七五
準優勝 かえで 一七九
第3位 しらかば 一八九
桂坂体育振興会
担当 戸谷・鈴木

第6回 PTAフェスティバルのご案内
フェスでゆるるん みんなでALOHA

7月19日(土) PM 3:00~7:00
桂坂小学校——校舎および体育館

今年で六回目を迎えるPTAフェスティバルは、児童保護者、教職員、そして地域の方たちと交流を深め、つながりを広げていこうというイベントです。普段、小学校に足を運ぶ機会のなかった地域の方々にも楽しんでいただけるお祭りとなっております。

PTAの各委員会、クラブ、有志の方たちに加えて、地域女性会、社会福祉協議会、少年補導委員会、西総合支援学校などの地域諸団体の方たちもご協力くださり、共につながりを深めながら手作りの準備をわくわくとした気分で進めております。大枝中プラスバンド部の演奏で始まって、ゲームコーナー、工作コーナー、お話コーナー、子どもスタッフによるおもちゃリサイクルのお店、児童会による「地球へのラブレター」という企画なども進行中です。エンディングは、みんなでフラダンス「月の夜は」をおどり、花火を見ながら夏の夕暮れを迎える予定です。

子どもの育成に、学校、PTA、地域が手と手をつなぐことの大切さが語られて久しい昨今、PTAフェスティバルがその一助となることを願っています。皆さんどうぞお誘い合わせのうえお越しください。小学校で「ゆるるん」とつながりましょう。

京都大学工学部「公開講座」

くらしと工学

8月2日(土) 10:00~16:00

プログラム

I. 携帯電話の不思議

10:10~11:15

教授 高橋 達郎

II. 健康状態を分子で診る—超高齢社会の新しい診断技術

11:25~12:30

教授 西本 清一

III. 安全なくらしを支える金属の科学—ナノテクノロジー

13:30~14:35

教授 白井 泰治

IV. 暮らしの伝統とまちづくり

14:45~15:50

教授 高橋 康夫

会場 京大桂キャンパス Bクラスター

事務管理棟1階「桂ホール」

定員 150名(申込先着) 受講料 無料

申込方法(1) 往復はがき

①「公開講座申込」の旨 ②住所 ③電話番号 ④氏名(フリガナ) ⑤年齢・職業(返信用にも住所・氏名)を記入の上、下記にお申込み下さい。

(2) 電子メール・FAX

件名を「公開講座申込」とし、②~⑤を記入の上、下記にお申込み下さい。(返信用メールアドレス・FAX番号は明確に)

(3) 京都大学工学部ホームページ

申込み用フォームに従い入力送信して下さい。

申込期間 7月22日(火)まで(定員になった時点で締切り)

申込先 〒615-8530 京都市西京区京都大学桂

京都大学工学部研究科総務課広報渉外掛

TEL 075-383-2010 FAX 075-383-2011

E-mail:kouhou@adm.t.kyoto-u.ac.jp

各位

桂坂小学校PTA

平成19年度会長 藤本 明弘

地域委員会

風薫るあざやかな新緑の季節となりました。平素は古紙回収をはじめとするPTA活動にご協力いただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、平成19年度の古紙回収の収支は、下記の通りになりましたのでご報告させていただきます。今後とも古紙回収の目的をリサイクルの推進とし、また、収益については子どもたちのために活用していくとともに、地域のみならずにも行事や活動を通して還元できますよう、続けていきたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

●前年度繰越金 2,007,359円(A)

●平成19年度古紙回収収益金 1,169,600円(B)

●収益明細

年 月	金額(円)	年 月	金額(円)
H19年 4月	93,020	11月	102,250
5月	75,500	12月	116,040
6月	78,170	H20年 1月	101,600
7月	102,030	2月	88,940
8月	81,960	3月	121,930
9月	85,100	預金利息	3,720
10月	104,340	助成金 ※	15,000
収益合計		1,169,600	

※京都市の『コミュニティ回収制度実施団体に対する助成制度』により桂坂小学校の古紙回収活動に対して上記の助成金が交付されています。

●支出合計[カザラッカコンサート運営費] 257,700円(C)

●残金:(A)+(B)-(C) 2,919,259円

*残金(2,919,259円)は20年度に繰り越されます。

ホタル観賞会
すつかり桂坂の夏の風物詩となった野鳥遊園の「ほたる観賞会」が6月5日から8日までの四日間開催され、四五八八名の方が参加されました。

園長・窪田さんのご苦労が実って、今では仄かな明かりを明滅させながら数多くが癒される気がします。

園長・窪田さんのご苦労が実って、今では仄かな明かりを明滅させながら数多くが癒される気がします。

園長・窪田さんのご苦労が実って、今では仄かな明かりを明滅させながら数多くが癒される気がします。

園長・窪田さんのご苦労が実って、今では仄かな明かりを明滅させながら数多くが癒される気がします。

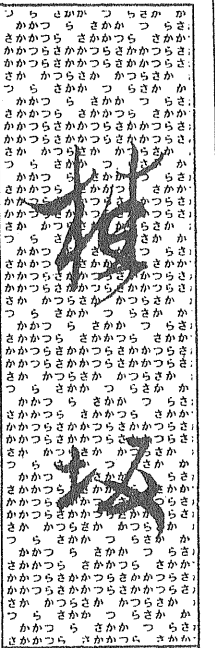
編集委員会より

この広報一三四号は三頁立てです。次号は「夏祭り特集」として、自治会の統一夏祭りの各会場と催し物を一枚にまとめたイラスト・マップを加えます。ご活用いただければ幸いです。

身近なところに「自然」がふんだんに在った頃は何かも人工養殖に頼らなくとも「大鯊ゆらりゆらりと通りけり」(一茶)——水辺のここかしこで神秘的な光の軌跡を描いていました。農業に因って自然が活力を失うと共に鯊を初め生き物の数も減少しましたが、今は健康な「自然」を回復させる様々な努力で里山、小川の水棲動物が再び姿を見せ始めました。「ほたる観賞会」が掛け替えのない「自然」を考える一日になればと思います。

桂坂小の1年生 今年も朝顔のプレゼント

今年も、桂坂小学校の1年生の皆さんが種蒔き・水やりから丹精込めて育てられた朝顔のポット苗が6月28日、山の手倶楽部の皆さんの元に届けられました。このうれしい贈り物は例年、ベランダや庭前で一夏、赤や青の花を着けて倶楽部の皆さんの目を楽しませます。これは、山の手倶楽部の皆さんが学校を訪れては、例えば昔の遊びを手足を動かして一緒に楽しみながら、機能迅速を重視する昨今の「遊技」とはまた異なった「遊戯」の楽しさを伝える一時を持たれる、親しい交流があつてのことです。撒水の水を受けて日毎、花を咲かせる朝顔は清々しい朝を彩ってくれることでしょう。



20080624
[08-02]
総 134号
発行 桂 坂
自治連合会 編集
広報編集部

大地裂けて水湧き出で 巖破れて谷へまろぶ

■人と防災未来センター見学記

桂坂自主防災会は去る6月8日(日)、各自治会、防災会の役員四名で、神戸の「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」を見学しました。例年、「京都市市民防災センター」において研修を行ってきましたが、今年は桂坂学区二〇周年記念の年でもあり、まだ記憶に新しい「大都市型地震」の実際を追体験し、そこから教訓を得ようという企画されました。

この「防災未来館」には11時頃に到着、大震災の教訓を後世に伝えるという目的にそって設けられている「震災体験フロア」、震災からの復興をたどる「震災の記憶フロア」「防災・減災体験フロア」など、順次見て回りました。

「1・17シアター」では都市を襲った直下型地震の凄まじい破壊力を映像と音響で追体験しました。一〇分足らずとはいえず、瞬時にして六〇数万の家屋を全半壊させ、また人命を容赦なく奪っていった自然の猛威と無慈悲にただ呆然、神戸の市街各所の被災のありさまが、まるで観る者が実地

に遭遇しているかのような迫力で迫ってきました。「震災の記憶フロア」では、「語り部」の人たちが来館者の質問に対して自らの体験をもとに懇切丁寧に対応しておられました。私たちが新聞の活字やテレビの映像を通して仕入れた、地震に関わることはや知識などは、この実体験に即した「語り」にあつてはまるで色褪せてしまっていますし、また、身の回りの思いもしなかつた物、例えば市販されている軽い発泡スチロール製のブロックが上からの力を支えてくれ、「防災」に大いに役立つ点を、(このことはすでに大方の常識となつているのかも知れませんが)知ることができました。

阪神・淡路からのメッセージ

「震災の記憶フロア」には、阪神・淡路大震災から得られた教訓が、次世代や世界中の人々への「メッセージ」としてパネルにまとめられ、「今後の防災・減災に向けて、学び、考えるための教訓の引き出しとして活用ください」と添え書きされていました。参考までに、メッセージの概要を書き留めておきます。

【学ぶ】—あらゆる場や機会を通じて災害・防災について学ぶ/災害の教訓を共有化し、防災・減災対策につなげる

【守る】—自分たちの命やまちは自分たちで守る/住宅の安全確保は自分の家族と近隣の人々を守る

【考える】—災害に対する想像力を持つ(この「想像力を持つ」ということについて「阪神・淡路大震災教訓集」は次のように述べます。)

…普段からできないことを災害時に急にできるものではない。このため、すべての人々が常に、災害が起きたら自分はどうなるのか、家族や子どもはどうなるのか、といった想像力を持ち、災害や防災対策につ

いて考え、行動を起こしていくことが大切です)【創る】—自分たちのまちは自分たちで創る/できるだけ早い段階から地域の自立に向けた取り組みが大切である

【助け合う】—被災者にとつて住まいの確保と人との「つながり」は大切である/被災地域のニーズあるいはコミュニティに即した支援を行うことが大切である/避難所は地域の拠点となる

【相次ぐ内陸型地震】先ごろ「対岸」で起こった、中国の「四川大地震」は大変な人的被害をもたらした。山の姿を大きく変えてしまふ激甚災害でした。とりわけ悲惨なのは、堅固で避難所ともなるべき学校の建物が無残に崩壊し、数多くの児童たちが犠牲となつたことです。いつ建てられたのかは判りませんが、も耐震構造など防災の面に配慮が行き届き、人命また第一に考えられていたならば、学校施設は家の壊滅した被災者たちの心の安らぐ避難所としての機能を十分果たせたかも知れません。(人事人工の短慮にして不備なるを打ち砕き、烏有に帰せしめた「天譴」の容赦の無さを前にしてどうやらわが国も学校施設の耐震化に拍車をかけるようです)

この「四川大地震」は私たちの想像を遥かに超える大災害でした。この大震災の惨状をテレビの映像を目にしたがら地震国に住む私たちに「対

岸の火災」とも思えずにいたところ、6月17日午前8時43分、「岩手・宮城内陸地震」が起きました。マグニチュード7.2で震度は6強。震源に近い一関市では瞬間的な揺れの強さを示す加速度が国内最大で、4022ガルを記録する(つくば市にある「防災科学技術研究所」6月15日発表)ほどの、大きな地震でした。

火山灰が堆積したといわれる地域の大地を揺るがした地震は、山を崩落させ、また、新聞・テレビの伝える災害前後の航空写真では山間地帯の緑を縫うようにきり拓かれた道路を含む一帯を、そのままの状態です。〇〇米ほど水平移動させるという凄まじい威力を示していました。土砂崩れ・地滑りに土石流、道路の寸断・陥没、多数の死傷者、行方不明者などなど—この度の内陸型地震は、過疎・高齢化が進んで地域の防災力もままならぬ山間地を襲い、しかも「想定外の活断層」に因つて惹き起こされたものだったとさうです。

【「教訓」をあらゆる防災対策に活かす】6月17日の「毎日新聞」は、「東南海・南海地震」の前に、近畿地方では予測の難しい「内陸型地震」の起きる可能性が高いことを報じています。同紙の6月15日の「社説」では、内閣府の出した「防災白書」が「国民の防災意識と行動との間にギャップがあり、危機感を実際の防災策に結び

つけなければならぬ」と指摘しているのをふまえてから、例えば、世論調査では、東海地震や東京の直下型地震などに関心を寄せたり、地震発生を心配しつつも身の回りの地震対策を講じていないという現実があつて「白書は切迫感が乏しく、実践的知識も欠如している、と嘆んでいるが、今回のように地震が続いた後こそ、官民が力を合わせて『減災』に向けて立ち上がるべきだ」と述べています。

【「対岸」のことはいえ「四川大地震」の激甚災害に驚いた心そのままに「人と防災未来センター」を訪れて、そこでまた衝撃的な映像や展覧内容に心を痛めてから数日後のこと、同時進行風に「岩手・宮城内陸地震」の発生です。

地震国の足元で起きた内陸型地震を今また目の当りにしたのでは、この先起こりうる惨禍を憂慮せざるをえません。私たちは、これを機に今一度、「阪神・淡路大震災」等の教訓から学び、そして、想像力・類推力という、ものの着想・構想から成案を見るに至る一連の精神の営みの中では欠くことのできないものの一つである、その力を頼りに「桂坂」のまちづくりや防災・減災について考えてみる必要があります。

桂坂自主防災会 広報担当 加藤記

元暦2年8月13日に近江

【参考】日本の大地震 『方丈記』の中で「おびただしく大地震ふること侍りき。そのさま世の常ならず」と鴨長明の記す地震は元禄2(文治1)年に発生し、次の様な様相を呈していたようです。(『平家物語』・大地震)もほぼ同じ) 山は崩れて河を埋み、海は傾きて陸地を浸せり。土裂けて水湧き出で、巖破れて谷にまろび入る。渚ごく舟は波に漂ひ、道ゆく馬は足の立処をまどはず。都の辺には、在々所々堂舎塔廟ひとつとして、全からず。或は崩れ或は倒れぬ。塵灰立ち上りて盛りなる煙の如し。地の動き、家の破るる音雷に異ならず。家の内にをれば、忽ちにひしげなんとす。走り出れば、地割れ裂く。羽無ければ、空を飛ぶべからず。龍ならばや雲に上らむ。恐れの中に恐るべかりけるは只だ地震なりけりとこそ覚えしか。

かくおびただしく震ることとは暫しにて止みにしかども、その名残暫しは絶えず。世の常驚く程の地震、二、三十度震らぬ日は無し。十日、二十日過ぎにしかば、やうやう間遠になりて、或は四、五度、若くは一日混せ、二三日に一度など、おほかたその名残三月ばかりや侍りけむ。…

【「共働」のまちづくり】 地域の主役は地域住民です。地域の復興まちづくりを成功させるためには、地域住民主体のまちづくりが不可欠です。しかし、災害が発生してから、地域住民が集まり地域の復興に取り組みうとしても、そう簡単にはいきません。

このため普段から地域住民同士が自分たちの地域のまちづくりを考え、取り組んでいくことが重要です。また地域住民主体の取り組みを応援する体制を整えておくことも大切です。

【阪神・淡路大震災では多くの高齢者の方々が犠牲になりました。災害は、幼児やお年寄り、身体の不自由な方々を容赦なく襲い、真つ先に被害を与えます。こうしたいわゆる災害時要援護者の方々が安全にかつ安心してくらせるまちづくりを進めることが、災害に強い安心・安全なまちづくりにつながるのです。

(「阪神・淡路大震災教訓集」より抜粋)

元暦2年8月13日に近江

元暦2年8月13日に近江